

2年目の取り組み 継続して拡げていく



社会福祉法人ひのき会
地域密着型特別養護老人ホーム 陽だまり

2024年6月時点での施設の状況

・入所	: 29名
・短期入所生活介護	: 10名
・平均介護度	: 3.7
・看・介護職員	: 23名 (男性8名 女性15名)
・腰痛あり	: 14名

福祉用具の現状

・スライディングシート	: 6枚
・スライディングボード	: 1枚
・グローブ	: 3組
・リフト	: 0台
・ベッドは全て電動ベッド	
・浴槽の数: ストレッチャー浴槽2、浴室リフト1、一般浴槽3	

1年目の取り組み

・職員教育計画

ノーリフティングケアの目的・必要性について全職員に理解してもらえた。福祉用具も少しずつ使用してもらえるようになった。

・リスクマネジメント

職員目線・環境面でのヒヤリハット報告の場をつくり、実際に上がったヒヤリに対して対策を行った。

・腰痛予防

腰痛体操の実施と職場環境の改善を進めることができた。

・福祉用具

福祉用具の一覧を見直し、使用状況と管理の可視化を行った。

実際に体験・経験してもらうことで
ノーリフティングケアについて職員の理解に繋がった

2年目の目標と取り組み

・1年目の取り組みを継続する

職員教育・ヒヤリハットの抽出
腰痛予防の取り組み・福祉用具の見直し

・ノーリフティングケアについて学べる環境を整える

研修会・勉強会への参加の促し、動画視聴による学習

・職員にノーリフティングケアの体験・経験をしてもらう

床走行リフトの導入を検討、デモ機を使用



日々の活動を継続しながら、
実際に体験・経験してもらうことに力を入れていく！

1年目の取り組みの継続

・職員教育

新人職員に対しマニュアルを用いてノーリフティングケアの目的と必要性の説明を行った。説明だけでなく理解度チェックも行い理解度の確認も行った。

リスクマネジメント

- ・定期的にラウンドを行い環境面のリスクの抽出を行った。
- ・ベッドリモコンやナースコールの接続不具合あり。
- ・コードが伸びていたり捻じれあり。
- ・定位置での管理の徹底を指導。
- ・2階に導入していた運搬用のワゴンを1階にも導入。身体的な負担の軽減を図った。



腰痛予防

2024年6月時点の腰痛調査の結果を全職員に周知行った。腰痛の程度に合わせた体操や対策、腰痛予防に関する情報の提供を行った。



・福祉用具の見直し

ラウンドやヒヤリハットで車椅子のブレーキの緩み・タイヤの空気圧の低下指摘あり。指摘があった時点で状況確認し整備を行った。



ノーリフティングケアについて学べる環境を整える

- ・個別の指導、教育も大切であるが当施設では時間と場所の確保が難しく動画視聴や研修参加の方がノーリフティングケアの浸透に繋がりと考え対応を検討

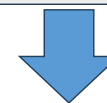
- ・ノーリフティングケアを施設全体で進めていくために施設外研修や勉強会への参加を職員に勧めてみた
- ・実際に2名は外部研修に参加
- ・全職員に対して動画視聴での学習を促した(基本的な体の使い方やケア方法)
- ・外部研修の内容もフィードバックし共有した



動画は全職員が視聴、研修に参加した職員も参加して良かった。実際に活用したい。と良い反応があった。

床走行リフトの導入を検討

- ・入居者様のADL低下に伴い介助量の増加あり。
- ・職員の負担増加している現状あり。
- ・移乗用の床走行リフトの導入を検討。



- ・1ヶ月デモ機を使用。リフトの使用方法についてオンラインでの研修あり。
多くの職員が自発的に参加してくれた。
- ・デモ機の勉強会も多くの職員が積極的に参加、沢山の意見が聞かれるなど良い反応があった。



床走行リフトの導入にむけて

- ・ 職員の反応もよく導入することが決定
- ・ 現在納品待ち中
- ・ スムーズに導入と運用ができるように
対象者の選定、使用方法の教育、リフトの管理方法等
事前の準備を進めていく

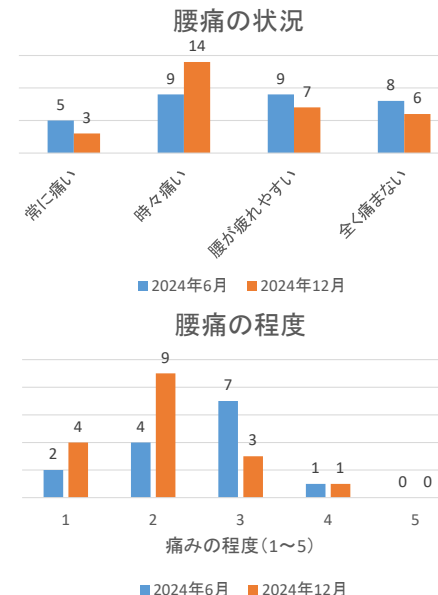


現在いつ納品されてもいいように準備を進めている段階

- ・ 対象者は6名、ベッド-車椅子の移乗、入浴時の移乗にも使用
- ・ 各階に配置予定であり配置場所と管理方法を福祉用具一覧に追加していく

腰痛調査の現状

6月と12月の比較



腰痛について
腰痛あり 45%→57%
常に痛い 16%→10%
時々痛い 29%→47%

腰痛保持率は**増加**
常に痛い人は**減少**

痛みの程度
1・2の割合は**増加**
3の割合は**減少**

腰痛がある職員は増加しているが
重度の腰痛保持者は減少

2年目の取り組み後の成果と課題

成果

- ・ ラウンドを継続して実施。抽出したリスクにも対応できた。
 - ・ 腰痛予防の取り組みとして情報提供や体操の促しの実施
 - ・ 福祉用具の定期的な見直しと管理の徹底
 - ・ 職員教育のため研修参加の促しと学べる環境づくり
 - ・ リフト導入にむけた準備
- 取り組みを継続して行うことで職員1人1人がノーリフティングについて意識してくれるようになった。

確実にノーリフティングケアは施設内で拡がっている

課題

- ・ 職員教育のため勉強会や研修への参加を増やす
- ・ リフトの運用前後の評価を行っていく
- ・ 定期的な活動の継続(ラウンド・委員会・啓発活動)

3年目の目標

- ・ 現在の取り組みの継続
- ・ 職員教育の体制見直し
- ・ 研修への参加と勉強会の開催
- ・ リフト運用の評価
- ・ ノーリフティングケアをふまえたアセスメントを行いケアに反映する

**少しずつでもいいので確実に継続していき
ノーリフティングケアを拡げていく**